

# 工賃向上研修会

社会福祉法人 彩凜会（吉川市）

理事長 星座正俊

施設長 土屋紘一

多機能型事業所 ひだまり

定員70名（生活介護・自立訓練・B型・就労移行）

内B型定員：40名

B型は大きく2つに分けて活動

- ①電化製品解体・調理・内職など
- ②ひだまり介護事業部



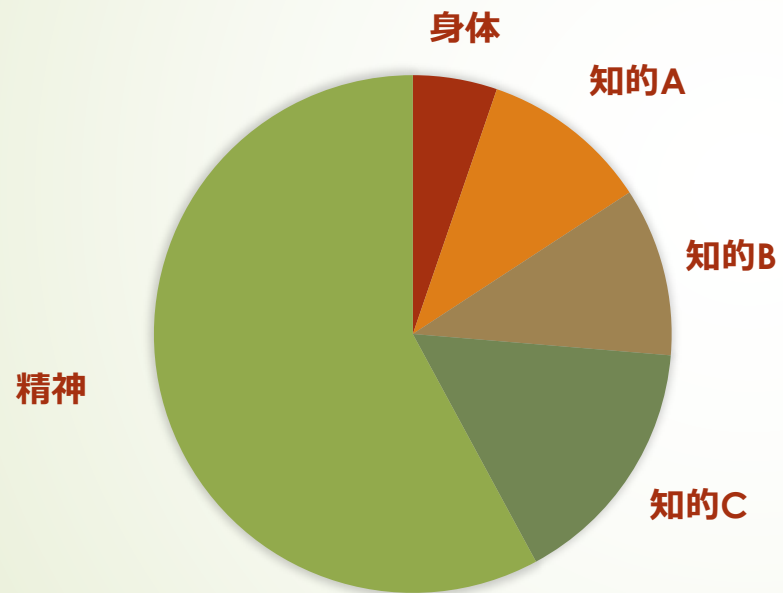
# “介護事業部の工賃、売上等の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (12月まで)	
人数	11	12	13	16	15	16	17	(平均)
売上	1,474	1,956	2,073	2,397	2,485	3,086	2,644	(万円)
工賃	31,700	33,900	32,600	39,800	49,000	54,300	54,000	(月額)
時給	520	549	581	601	705	769	804	

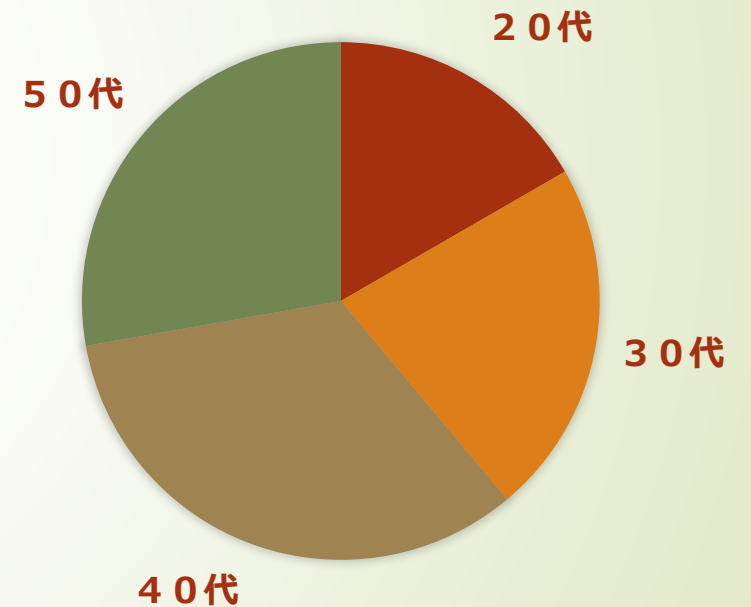
10年前（H23）は月額売上が約20万、月額工賃は1万円に満たず、作業も乏しく毎日何をやろうかと考える日々。

# 現在の利用者

## 障がい種別



## 年齢構成



※ 種別の重複あり

# 介護事業部の事業内容

- ①福祉用具の消毒、メンテナンス

介護保険でレンタルされる福祉用具の洗浄消毒、  
高齢者施設や病院で使用されている福祉用具の修理、洗浄作業。  
全体売上の約4割。

- ②物販部門

商社と契約し新品福祉用具販売、古物商を取得し福祉用具の買取販売。  
全体売上の約4割

- ③環境整備サービス

ごみ屋敷の片づけや高齢者施設に入居する方の家財引取、  
高齢者の「住」に関わるトータルサービス。  
全体売上の約2割



# 介護事業部のコンセプト

「高齢者や身体が不自由な方々のために障がいのある方が作業を通じて貢献する」

コンセプトはとても大切にしています。

迷った時、苦しい時の道しるべです。

高工賃は目的ではなく、手段。

目的は利用者さんが充実した人生を送ることができるようにすること。

そして利用者さん、ご家族が「良い人生だ」と思ってもらえる瞬間があれば、介護事業部の存在は価値ある存在になるんだと思います。



# 売上・工賃向上を実現するために意識していること

- ①年間売上目標から各部門の売上、月ごとの目標、週の目標、日々の目標を細分化し進捗管理をおこなう。（R2年度の月額売上目標は250万円）
- ②営業進捗や各取引先とのやりとり、クレームの対応、改善など全ての情報をクラウドで共有する。
- ③どんなに良い売上がでたとしても、特定の取引先からによるものであれば危機感を持ち、対応する。特定の取引先に売り上げを依存しない売上形成。
- ④ファンを作り、ファンの方が代わりに営業をしたくなるようなサービス、商品を提供し続けること。

# 売上を積み重ねるために実行していること

①お客様に「YES」か「NO」かの判断をさせない提案をする。

買うか、買わないか。頼むか、頼まないかの選択ではなく、「YES」の中で選択してもらえるような提案をする。

②「できません」、「ありません」とできるだけ言わないようにする。

相手からの提案や相談、問い合わせがあった時に断らないようにするために、

「〇〇のようなやり方なら△△円でできますがいかがですか？」

「〇〇は難しいですが、△△なら□日までにできますがいかがですか？」

「〇〇は無いですが、機能が似ている△△ならありますがいかがですか？」

③クレームや改善要求に対応した最後には相手に感謝の気持ちを伝える。

# コロナ禍で起きたこと・行動したこと

福祉用具の洗浄メンテナンス事業の売上が半分以下に。。。

## 原因

- ・病院や高齢者施設からの依頼がほぼゼロ
- ・介護保険でレンタルされている福祉用具もケアマネージャーさんが在宅介護の方への訪問を自粛したために福祉用具の入れ替えが激減。そのため、洗浄依頼も激減。

## 行動したこと

かたっぱしから中古福祉用具の営業とともに中古品買取を強化。買取品の洗浄メンテナンスで利用者さんの作業を確保し、並行して販売強化。

また、環境整備サービスを積極的に受注。

結果的に予算を達成し、利用者さんには普段と変わらない工賃を支給。

コンセプトを大切にしながらも複数の基軸事業を持っていることが大切と実感。



# コロナ禍で感じたこと

世の中、何があるかわからない。それでも事業を継続するためには何か特定の事業、特定の取引先に依存することなく、しっかりとしたサービス、商品が提供できるようにすること。

人やモノの動きが鈍くなった時（コロナ禍や不景気）でも変わらずに動き続けるモノは必ずあること。

普遍的に必要なモノやサービスはどんな経済環境下になっても一定のニーズはきちんと残るということ。

# 最後に

- ▶ コロナの収束が見えない中、報道されるニュースはネガティブなものばかりです。
- ▶ 職員も利用者さんも大きなストレスを感じていることと思います。
- ▶ このような環境下でもまずは職員が同じ方向を向くこと、そして何よりも職員がワクワクして、「これを実現できたらテンション上がるよね！」と思えるようなポジティブな気持ちと発想を持ち続けたいと思っています。
- ▶ 利用者さんが家族やGH職員に「おれ、明日から泊まりで出張だから」と言ったらみんなテンション上がるよね！というワクワクした発想から泊まりでの出張も実現できました。
- ▶ まずは現場で働く職員がワクワクすること。それを大切にしながら日本一の事業所を目指していきます。